

歴史学の専門書・論文の読み方

～設計図化してみよう～

特に設計図化が重要です

設計図化とは専門書や論文の要点を箇条書きにすることです。専門書や論文が車なら、箇条書きする作業はタイヤとかハンドルといったパーツごとに分解することです。

設計図化のまえに

専門書・論文の「はじめに」・「序章」と「さいごに」・「終章」を設計図化する前に読みましょう。前者では問題提起や著者の興味関心、その本が先行研究内でどのように位置づけられているか分かります。つぎに後者では、内容の総まとめや課題、今後の研究展望などが書かれており、大まかに内容をとらえることができ、レポートや卒業論文作成時に役立ちます。

設計図化

まず簡単に要点をまとめ、キーワードを探し「」書きにするなど目印をつけておきます。個人的に記号（相反する内容であれば⇔で示し、歴史学で多い年代の推移は→、原因や結果は⇒などで示すなど）を用いる際のルール作成や、疑問点などは（○○カ）などで書いて地の文と区別をつけることをお勧めします。例えば以下の文章を設計図化してみます。

『球陽』の記事を受けて山田（2020：pp. 41-42）は次のように述べている。

興味深いのは、これら農事に関わる記事の多くが、水道の開削といった灌漑施設の整備と水田の開拓などにより増産が図られたことを訴え褒賞を受けていた点である。それは少々の旱魃でも干上がるような雨水に頼る脆弱な農業基盤(天水田)からの上に琉球の生産体系があったことを示すとともに、反面そのような基盤でも成り立っていた時代から十分な灌漑施設を設けなければ生存や貢納の要求を満たすことができない気候変動の激しい時代が訪れていたことを示している

設計図化すると以下の通りになります。

- (1) 『球陽』中の農事に係る褒賞記事。
- ①灌漑施設と水田の開拓による増産が主な褒賞対象（田という課税対象であるからカ）
 - ②降雨に依存した「天水田」という農業上の水確保事情
- ⇒①・②の背景：天水田でも成り立つ時代→成り立たない時代へ

設計図化のおすすめポイント

- ・要点を押さえて箇条書きする訓練は、一つの書物を輪読する形式の講義にも役立ちます。書き手は現在大学院の文学の講義でも応用しているので、あくまで個人的には汎用性があると思います。
- ・ひとまず、複数の著者のとある視点を設計図化していくと、Aさんのタイヤは〇〇で、Bさんのタイヤは□□と差異がわかりやすい利点があります。同じ分野＝車をみてもパーツごとには違うことがわかって心躍ります。
- ・そばに（ ）書きで疑問を書いておくことで、その当時解決できなかった謎も後々見返すと案外あっさり分かったりするものです。

※あくまで個人的なお勧めポイントです。

(地域共創研究科 M1)

参考文献

山田浩世 (2020)「琉球における社会危機と復興：十九世紀前半の「上からの村落立て直し」と褒賞」中塚武ほか『気候変動から読みなおす日本史6：近世の列島を俯瞰する：南から北へ』臨川書店 pp.15-49.